

2024年8月25日(日)

中国新聞 SELECT 掲載

JICA
だより



ひろしまNPO
センター

増田勇希さん(44)
広島市安佐南区出身

「国際協力に関する進路が見えた」「学校だけでは知ることができない世界と人に出会え、これまでとは異なる視点を得た」。JICA中国が提供する「高校生国際協力体験プログラム」を終え、中国5県37校から参加した40人の生徒は、将来の国際協力への関わり方について可能性を見いだしたように思う。

国際協力 高校生が探求

このプログラムは、毎夏2泊3日の日程でJICA

A海外協力隊として仮想の村「アトリ村」へチームで派遣され、村人へのヒアリ

2日目は、ユースJIC
ングを通じ、課題を探究、
討議し、課題解決に向けた
プランを作成する。そして
3日目は発表と振り返りを

して開発途上国で活動して
きたスタッフも7チームに
1人ずつ参加し、高校生を
サポートする点にある。

生徒たちは何度も話し合
いに行き詰まり、時に激し
い議論も交えて自分たち
くりにつながっている。



「アトリ村」へ派遣され、課題解決プラン
について話し合う高校生
して、国際協
なりの課題解決プランを模
索する。海外経験豊富なス
タッフが加わることでリア
深めるとい
構成になっ
いる。
プログラム
の大きな特徴
はJICA海
外協力隊や非
政府組織(N
GO)職員と
ともに、生徒の今や将来
に大きなヒントを与えるこ
とになる。国際協力に多く
の知見を持つ多様な関係者
が作り上げるプログラムが
未来の国際協力の担い手づ
くりにつながっている。